

在外公館文化事業【平成31年度政府予算額：238百万円の内数（261百万円の内数）】

在外公館が管轄地域における対日理解の促進や親日層の形成を目的として、外交活動の一環として主催（共催）する日本文化紹介事業。日本伝統文化（茶道、華道、書道、折り紙等）のレクチャー・デモンストレーションやワークショップ、日本映画上映会、邦楽公演（和太鼓、三味線等）、武道のレクデモ、日本語弁論大会等を企画・実施。近年は、アニメ・マンガ等のポップカルチャー紹介や和食のPR等も積極的に奨励。



フランス（ストラスブール） 「茶道のレクチャー・デモン ストレーション」

アルザス地方のスルツ市において、同市と共催による茶道レクチャー・デモンストレーションを実施。同時期、同会場にてアルザス欧州日本学研究所が岩手南部鉄器のコレクションと日本の「ものづくり」パネルの展示を行い、相乗効果を図った。



中国（南京） 「カワイイファッション・メイク レクチャー」

メイクアップ界の第一人者であるトニー・ナカ氏によるレクチャー・デモンストレーションに加え、「全国理美容学校kawaii選手権大会」の優秀賞受賞者によるカワイイファッション・メイクのデモンストレーションを実施。



マラウイ

「日本大使杯柔道選手権大会」

マラウイ柔道協会と共催で柔道選手権を開催。日本文化である柔道をアピールするとともに、同協会で柔道指導を行っていた青年海外協力隊員の貢献も紹介、柔道を通じた対日理解促進に寄与。また教育、スポーツ関係の政府関係者も招き、人脈強化を図った。

国際交流基金事業【平成31年度政府予算額：13,322百万円の内数（12,562百万円の内数）】



日本語能力試験直前まで勉強する受験者(マニラ)

- 日本語専門家の海外派遣
- 海外日本語直営講座運営
- 海外の日本語教師・学習者や外交官等を対象とした訪日研修
- EPAに基づく看護師・介護福祉士候補者への日本語研修
- 日本語教育機関等への助成
- 日本語教材の開発・制作
- 海外の日本語教師育成
- 日本語能力試験の実施

海外での日本語普及

文化芸術交流

日本研究・知的交流



シンポジウム「アジアの価値観と民主主義」
＜28年1月 東京、29年8月 ヤンゴン＞



パリにおける北斎展

- 美術、音楽・演劇・舞踊、映像メディア・出版、生活文化・スポーツ等幅広い分野における文化交流
- 日本文化芸術紹介事業
- アーティスト・文化人・専門家等の派遣・招聘
- 市民・青少年交流事業
- 海外の文化振興のための国際文化協力事業等

- 世界の日本研究機関の基盤整備・ネットワーク強化（海外日本研究者へのフェローシップ供与、高等教育・研究機関への助成）
- 日本研究情報提供
- 世界・地域共通課題解決や異文化間対話促進のためのセミナー、シンポジウム等知的共同作業の実施
- 人材育成支援

外交政策を踏まえ、国・地域別の長期的な観点から、
ツールを組み合わせ、総合的・戦略的に文化交流を実施

日本国際漫画賞



沿革

「今や世界各国に現れつつある若きマンガの旗手たちに、マンガの本家本元である日本から、権威のある賞、いわばマンガのノーベル賞のようなものをあげたい。」との思いから、2007年、麻生太郎外務大臣（当時）が創設。

概要

- 海外の漫画家の応募作品の中から、最優秀賞1作品、優秀賞3作品を表彰。
- 受賞者を10日間程度招聘し、日本の漫画家との懇談及び関連団体訪問の機会を提供。



京都訪問

写真提供：（独）国際交流基金



期待する効果

- 世界の漫画家に対し、日本との絆を意識してもらい、漫画文化の担い手層の日本への好感度を維持する。
- 日本文化の一翼を担う漫画を、海外で更に受け入れられやすくする。

【参考】第1回から第12回までの応募作品の国・地域及び作品数

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
国・地域数	26	46	55	39	30	38	53	46	46	55	60	68
作品数	146	368	303	189	145	245	256	316	259	296	326	331



目的

日本とアジア大洋州，北米，欧州，中南米の各国・地域との間で，対外発信力を有し，将来を担う人材を招へい・派遣し，政治，経済，社会，文化，歴史及び外交政策等に関する対日理解の促進を図るとともに，親日派・知日派を発掘し，また，日本の外交姿勢や魅力等について被招へい者・被派遣者自ら積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し，我が国の外交基盤を拡充する。

対日理解の促進 ・ 親日派・知日派の発掘

対外発信の強化

外交基盤の拡充

概要

対象者： 招へい： 高校生～社会人等 / 派遣： 高校生～大学院生等

期間： 10日間程度（平成31年度内に実施）

対象地域： 招へい： アジア大洋州，北米，欧州，中南米 / 派遣： アジア大洋州，北米，中南米

地域別名称： JENESYS2019（アジア大洋州），カケハシ・プロジェクト（北米）

MIRAI（欧州），Juntos!!（中南米）

規模： 約23.5億円，約4,800人

事業の実施形態

日本政府（事業方針に沿って推進）
（拠出金支出）

国際機関等（事業の実施団体を選定・委託）
（拠出金管理）

実施団体等
（プログラムの企画・実施）

外国報道関係者招へい

【平成31年度政府予算額：52百万円の内数（52百万円の内数）】

1. 概要

- 外国報道関係者を個別又はグループで日本に招へいし、政治、経済、文化等の幅広い分野における最新の日本事情等に関する現地視察、インタビュー、政府関係者によるブリーフィング等の取材機会を提供。
- 訪日取材に基づき、外国メディアが日本の状況を正確に報道することによって、海外における正しい対日理解の増進、ひいては日本に対する好感度の向上を図る。

2. 接遇

- 期間
原則本邦着・発日を含めて最長8泊9日。
- 滞在プログラム
日本の広報上の課題や外交行事等を踏まえ、視察先・インタビュー先等に関する記者の具体的な要望を考慮して作成。外務省から記者に対し、適当な取材先の提案を行う場合もある。
- 経費
招へいに要する航空費、本邦滞在費は外務省が負担。滞在プログラムには当省手配のエスコートが同行。

3. 近年の実績

- 平成29年度
26カ国から計43名の記者を招へい。計138件（平成31年1月現在）の記事が掲載された。（個別11名、グループ7件32名。）
- 海外市場取り込みのための招へい
・インフラ輸出や「質の高いインフラ」に関し、日本の高い技術・品質等をアピールする招へいを実施。
- 日本文化・魅力発信のための招へい
・ジャパンハウス開設、ジャポニズム2018、東京オリンピックパラリンピック、大阪万博誘致を踏まえて、日本分野や魅力発信のための招へいを実施。



「狂言を通じた日中文化交流」の取材
中国記者の招へい



日本のロボット開発の最前線を
紹介する記事を掲載。